No.69

Newsletter

The Friendship Force of Aichi

発行 2006年9月

FF 愛知では、9 月 20～27 日コスタリカ・アルフェラクラブからアンバサダー24 名を受入れ、交換を行うことになった。中米のクラブとの交換は、当クラブとして今回初めてとなる。昨年は、コスタリカ他中米の国々と日本との交流 70 周年の節目に当たり、愛・地球博においても活況を呈したパビリオンの一つであった。二つの大洋に挟まれ豊かな自然環境を持つ国、非武装の平和憲法を持つ国、我々の交流は深く実りのあるものになると期待される。

OOSTENDE

'FRIENDSHIP FORCE CLUB OF BELGIAN COAST' ZOEKT NIEUWE LEDEN

今年の春渡航の際、地元の新聞に FF 愛知の訪問が掲載されました（ベルギー）

TOMODACHI

AED 白木裕己

今回、TOMODACHI ということばの意味が改めて分ったような気がいたしました。

昨年、初めてハワイの交換に参加し、また、今回のベルギーとドイツの訪問を通じて、世界の人々の輪が本当に強く結びついていることを実感いたしました。というのは、ハノーバーのホスト宅のディナーに招かれた来客の Veronika、Klaus Groben 夫妻が、私に「あなたが白木裕己さんですか。私達は、2週間するとハワイの Robie さんと Bob Gee さんを訪問する予定でいます。彼女達は2001年9月11日に私の家に来ていたことがあるのですよ」と話し掛けられました。実は、私が初めてハワイでお世話になったホストが、Gee ご夫妻だったのです。

オステンドの郊外に The Atlantic Wall Museum があります。そこは、第二次世界大戦のドイツ軍の北海を望む要塞で、今もきちんと整備され子供達の教育の場として、多くの人が見学に訪れていました。「戦争と平和」、この言葉は改めて将来の日本について考えさせる言葉です。美しい古都のブルージュやゲントは 15 世紀に建築され、今も多くの観光客が威容な遺産にため息をついて町を歩き、コーヒーショップでワッフルを味わっている姿は、まさに私達そのものでした。

ハノーバーでは、戦争で破壊された町を復興し、ヒルデスハイムでは、世界遺産の教会が再建され、町並みも昔の特徴ある彫刻で造られていました。また、古都のセレは、数少ない破壊されなかった町で美しい城下町として、今も賑わっていました。その午後、郊外のアスパラガスを栽培している広大な畑を訪れ、次の静かな修道院に行くと、何とその修道院の屋根から突き出た煙突の上には、大きな鳥の巣がありました。そこには羽を休め、雛に餌を与えているコウノトリの姿があったのでした。心が豊かになったような気がいたしました。

今回の交換で強く感じたことは、戦争で破壊された町、再建された町、貴重な文化遺産を今に伝える町などを訪れましたが、この先いつまでもこの絆を友として、世界中のクラブが、兄弟としての FF の精神を忘れてはならないということを心新たにいたしました。

すばらしかったドイツ

蟹江直子

ドイツはやっぱりすばらしかった！

ベルギーもドイツも、とても魅力あるすばらしいホストファミリーで幸運でした。

ドイツでは、とくにお天気にとても恵まれたこともあり、モクレンの花と若葉のグリーンがとてもきれいでした。そんな花と緑で一杯の、お庭で毎日ワインと美味しいディナーで、いつも夢心地？でした。ちょうどホワイトアスパラのシーズンで茹でたてのアスパラをお腹いっぱい食べさせていただきました。

ホストマザーが日本語を勉強中ということもあり、「これは日本語でなんと言うの？」と聞くので、「じゃあ、ドイツ語では何というの？」と聞き返す。食事中もいつもお互いに片手に電子辞書、片手にワイングラスをもって大忙しです。

日本の文化にもとても興味があるようでしたので、日本から持参したお抹茶と和菓子でティーセレモニーのパフォーマンスも紹介することができました。

一生懸命お世話してくださったので、ずいぶんお疲れになったのでは？　自分たちでできることはなかったかしら？と、少し反省しています。

楽しい毎日をありがとう

大 崎 明 美

ハノーバーの人たちの笑顔と陽気なメロディーに迎えられて、一気に気持ちがほぐれた。新緑の森、美しい町々、おいしいパンとビールとワイン。ホスト夫妻と歌った歌やハノーバーの人たちの美しいコーラスが今も耳に残っている。

とつとつと語るホストの昔話に、戦後の彼らの苦労を知った。息子さんもドイツの歴史を説明してくれた。私は、彼のお嫁さんが三島由紀夫の作品を読んでいるのに驚き、また、日本の茶の湯の精神とは何かと尋ねられ、自分の英語力のブラッシュアップはもちろんのこと、自分の国、日本のことを、外国の人たちにしっかりと伝えられるようにしなければと、今更ながら痛感した。

ベルギーでは、ホストが地理の先生で、大国の狭間で生きてきたこの国の立場を語って下さった。その子供たちも苦労して今の立場を築き、孫たちもよく勉強する。 オステンドの美しい夕日とともに忘れられない。また、３，４か国語を話す人はざらで、まさにヨーロッパは一つを実感した。

今回が初めての参加だったが、本当に実り多い旅をさせていただいた。

2007 ASIA PACIFIC FESTIVAL コーナー

海外よりの参加登録順調にすすむ

実行委員長　加　藤　八　郎

別掲の報告にもありますように、去る 6 月 17 日、山形において日本大会が開催され、その席上で APF についての説明と参加の呼びかけ、及び各クラブの受入や渡航の際に APF を宣伝していただくよう協力を要請しました。

日本大会には衆議院議員であり FFI の国際理事でもある愛知和男さんが出席されましたので、会議前に親しくお話しをさせていただき、APF への出席をお願いしました。また、大会に参加された FFI のブラウン会長と APF 担当のデビー・パウエルさんには会議中付き添っておりましたので、アイルランドの世界大会で APF の宣伝のために使う名古屋の DVD の送付や登録申込の処理などについていろいろ話し合うことが出来ました。また、ブラウン会長にも APF への出席を依頼しました。

9 月 2 日には静岡で中部ブロック会議が開かれましたが、その場でも APF の説明をしました。出席したクラブからいろいろな形での協力の申し出があり、ホームステイ先のクラブからは受入可能の人数が総数で 75 名までとの確認が得られました。

FFI からの連絡によれば、8 月末現在の海外からの参加者の登録が 48 名に達しとのことです。この調子ですすむと海外からの参加者は予想をした 60 名をかなり上回るのではないかと思われます。一方日本国内からの参加申し込みは遅れている様子です。

APF の事務局、受入委員会、行事委員会では各担当で詳細な打合せが進められております。会員全員参加で楽しく準備をしていきたいと思います。ご協力をお願い申し上げます。

APF について

会長　冨岡　達也

実行委員長報告のとおり、具体的に申し込みが出てきました。APF の準備の進捗に伴い、実施形態が少しずつ形に表れてきましたが、今後さらに個々の問題をつめて行くことになります。それに伴い、事務局より会員の皆さんに協力要請が参ることと思います。是非御協力ください。いつも申し上げることですが、まずは参加です。そして全員で楽しいフェスティバルに仕上げて行きましょう

APF 事務局からの報告

（8 月 19 日 APF 準備委員会より）

- ブレザーについて
  FF 愛知のユニフォームとして紺色ブレザーに決定した。着用は強制でなく手持ちの物でも良い。購入希望者は事務局に問い合わせください。
- エンブレム
  ブレザー着用時にエンブレムをつける。デザインは決定した。
  価格は￥2,000、個人負担
- 彦根バス旅行プレゼンテーション
  下見報告　　堀　夏江
- APF 準備委員会の案内はメールと会報
- 8 月 25 日名古屋城見学 Gr.のミーティングが安藤龍蔵さんの司会で行われた。
- 次回 APF 準備委員会：9 月 30 日（土）
  10：30am～

≪山形日本大会　6 月 17 日

FF 愛知　事務局　鷹野晴子

2006 年第 20 回 TFF 日本大会が、“さくらんぼと蔵王”で有名な山形で開催された。全体会議は 13：00 から山形クラブ事務局の武田義郎さんの司会で始まり、山形クラブ会長の矢部時男さんの山形弁の挨拶が会場の雰囲気を和やかにした。FFI から George Brown 会長と Debbie さんが出席され、FFI の現状についてのスピーチがあった。日本からは FFI 理事の愛知和男さんが出席されて基調講演が行われた。愛知クラブからは APF 実行委員長の加藤八郎さんが APF の紹介をされた。参加者には冨岡会長が用意された APF のチラシが配布された。

参加者は日本各地、全クラブから 125 名が集まり、台中クラブのサイさんご夫妻、そして何時も参加されるソウルクラブ会長のファンさんご夫妻のお元気な姿があった。

全体会議に続いて代表者会議、二つの分科会が開かれ、各会場で熱心な討議が行われた。
代表者会議には Brown 会長、Debbie さんも出席され、加藤八郎さんが通訳の協力をされた。

愛知クラブからは 8 人が各分科会に出席し、討議に加わった後、夜のパーティーでは山形のおいしい郷土料理を味わい、他クラブの人々と交流を楽しんだ。

今回の大会は山形クラブの温かいホスピタリティーと友情にあふれた良い大会だった。

George Brown 会長のスピーチ（抜粋）

1. フレンドシップ　フォースの組織はますます安定してきた。2005 年は 58 カ国 357 クラブの交換があった。
2. 世界はますます難しくなっている。人々は分かり合えず言い争いをしている。我々のモットーは”I can make a difference”であることを確信してさらに活動を進めていきたい。
3. 来年 3 月 1 日はアトランタで FF の 30 周年記念のイベントをやる。世界中の会員とこの喜びを分かち合いたい。

代表者会議から：

1. 今後日本のクラブが交流を深める機会を多く持つことによって FF のより良い活動を学び合いたい。
2. 日本大会の回数は？
   毎年大会に出席している人達からは毎年開くことの意義が語られ、一方、出席の経験のない多くの人達からは毎年は必要ないと意見が出た。
   大切な問題なので来年度継続審議となった。

※　会員名簿の配布について

FF 愛知の名簿をニューズレターと一緒に送ります。
個人情報ですので外部に持ち出す事のないようにお願いします。

会長　冨岡　達也

＊事務局からのお知らせ＊

＊ 新入会員紹介

			紹介者
竹内	節子	南知多町	加藤　紀子
中本	幹雄	武 豊 町	加藤　紀子
伊藤	邦夫	名古屋市	岩瀬　裕子
前田	純二	瀬 戸 市	岩瀬　裕子

編集・発行　：FF 愛知
ホームページ：http://homepage2.nifty.com/FF-Aichi/
事　務　局　：〒470-2101
愛知県知多郡東浦町森岡祖母懐 15-37
Tel & Fax 0562-83-8341
鷹野晴子